

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で入居者を支えていくという目的を明確にした理念をつくりあげている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基本とし、解りやすい言葉で「職員の心得」を掲示してミーティングで話し合いケアについて意見の統一を図っている。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族へ入居手続き時に理念を伝えている。 地域の自治会に加入して地域の集りなどには積極的に参加するなど自然に地域とのつながりをアピールしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に挨拶を交わしている。回覧板や散歩でふれあう機会もあり、お花を持ってきて下さったりする。また、もちつきや夕涼み会には近隣の方をご招待して交流を深めている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りなどに利用者と共に参加しており、毎年、地域の方もグループホームにお神輿を繰り入れたり、婦人会が踊りを披露してくれるなど入居者を楽しませてもらえる。地域の行事の料理をグループホームにきていただいて作り、地域の人々がより身近な存在となっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	管理者は地域の会合に出席したり、高齢者と積極的に接しグループホームの催しに参加手伝いをお願いしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を職員全員で行いながら、自身を見つめ直すことができた。評価をして改善にむけてて具体案の検討や実践につなげるための努力をしている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて家族アンケートに取り組み、公表をして家族の意見を検討し、サービスの向上に努めている。また評価結果を配布し会議で説明を行って、推進委員の方からも意見をもらうようにしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	台風シーズンに備えて、市町村、民生委員、消防との連携は不可欠である。安全面で協力していただいている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見人制度及び地域福祉権利擁護事業に係るリーフレットを玄関に掲示している。管理者が研修に参加しているが、現在このことが必要な入居者がいないため他の職員は理解していない。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より、入居者への言葉かけなどで気付いたことがあれば、その場で反省を促したり、ミーティングで職員全員で話し合うなどして改めるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明をしている。利用料金などの経費の面や起こりうるリスク、受診について、緊急時の対応など詳しく説明をして同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各居室を訪問して、入居者から意見を聞く努力をしている。利用者の態度や言葉からその思いを察し、ミーティングで話し合い職員全員がその思いを察する努力をするようにしている。	入居者と職員の会合が出来るレベルの方が少しずつ増えたので会合を定期的に設けたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態に変化が見られた時は随時家族に連絡を行っている。毎月各自の担当職員が日頃の様子やエピソードなどをお便りしている。小遣帳をお預かりしている方については定期的に確認してサインをいただいている。	各担当の毎月のお便りが、ご家族からとても好評でお返事も届いています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員を設置して、家族にその意図を説明している。家族には、来訪時に何でも言ってもらえるような雰囲気づくりをしている。家族会がないので運営推進会議にはご家族全員に案内を出して参加を促し、ホームのことを知っていたきながら意見などをいただきたいと企てている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例会議を月1回行い、ホームの行事や、設備、思いなどの意見を聞いている。不満などもあるが、改善できないことも多いのが現状である。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	夜勤者は日常の様子をよく理解できているが、入居者の変化にすぐ対応できる柔軟な勤務体制にはなっていないので、そのような場合には管理者が対応しなければならない。関連のグループホームが集り勤務時間の調整も検討してみたが改善できなかった。今は、入居者の受診日や行事がある日に職員にゆとりができていくくらいである	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しい職員は勤務に入る以前に何度か来訪していただき、入居者と接していただいている。職員の交代は2年以上行っていない。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	職員全員が研修を受講できるようにしている。研修報告はその月の定例会議で発表してもらっている。	職員がスキルアップできることや資格取得には全面的な援助がある。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	市内のグループホーム管理者が月1回集い、勉強会や悩みの相談などができている。関連の事業所で月1回会議を開催し、代表が出席して、議題を決め勉強会や情報交換などを行っている。	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員の休憩所がなく、自由にゆっくりと休憩ができていない。	
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	職員の資格取得に向けた支援を行い、取得後は職場内で活かせるように配慮している。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	入居の相談があった時、家族から入居の理由や心身の状態、生活状態を把握し、本人から思いを聞いたりして、職員に周知してもらって受け入れの態勢をつくっている。	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	家族や本人にグループホームを見学してもらい、できるだけ安心して入居していただけるように、ゆっくりと話を聞く時間を設け、入居後は面会を歓迎している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、ご本人やご家族の思いや状況を確認して関連事業所と調整を行いサービスが受けられるように努力をしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人やご家族にグループホームを見学してもらい、居室に案内して職員の支援などを伝え安心感を持ってもらえるようにしている。 家族にも出来るだけ多くの面会をお願いして本人を共に支えていくようお願いをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	節目の行事などをお聞きして、できるだけそれに近づいたことができるように指導してもらっている。また「食器拭きは私たちがやる」と一手に引き受けてお互いに感謝の言葉を口にしなが作業をしている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日頃の様子やエピソードをご家族にお便りし、入居者の思いや希望などを家族に伝えたりしながら共に支えてほしいとお願いをしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の面会時には、入居者の良いエピソードなどを積極的にお話し、行事などではご家族と入居者が共同して活躍できるような場面を設定したりする。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお祭りに参加すると、たくさんの知人から声をかけられ、とても喜んでもらえるのでこのことをひとつの機会と考えている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事のテーブルは皆が向き合って食事が摂れるように配慮することで表情が違って来た。またホールのソファでの交流が良い結果になったのでソファの数が次第に増えてきた。(自然に会話が生じている)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	母体が病院であり、入院加療が必要のため退去された方が多い。時々尋ねていたりして励ましている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望や意向を把握したり、意思疎通が困難な方については家族から元気なころの様子などをお伺いして本人をささえている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人やご家族からどういう風に暮らして来たかなど生活歴をお聞きして入居されてからも、会話の中で周りにどんな方がいらしてどんな風に暮らしてきたかなどを聞くと同時に家族と良い関係が保てるようになってから若い頃の情報を本人も交えてお聞きしている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを把握している。行動や言動から感じ取り、心身状態も考慮しながら今のその方をささえている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、ご家族から意向を聞き、反映させるようにしている。月1回定例会議を開いたり、朝のミーティングで意見交換やカンファレンスを行っている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月の定例会議で個々の入居者について意見交換を行っている。状態に変化が生じた際にはご家族の要望などを十分に検討して見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの様子やエピソードなどを記録し、気になるような事柄は連絡事項に記入して職員全員が確認できるように徹底している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診には家族の事情などでほとんどグループホームが送迎を行い、個々の満足度を高めるように努力をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員のメンバーは消防や民生委員などから構成されており相談や意見交換、その役職に基づいた支援をいただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービス事業所の支援は受けていませんが、理美容で専門店より、臨機応変な対応で利用させていただいている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	日向市地域包括支援センターとの協働はほとんどないが、東郷町地域自治センターの保健福祉課の職員が運営推進委員のメンバーなので情報交換や協力関係が築かれている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望するかかりつけ医となっている。通院はグループホームがサービスで行っているのかかりつけ医とも良い関係ができています。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	理事長が精神科医のため、すぐに相談が可能であり適切な指示や助言を得ることができる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置している。受診している病院の看護師も入居者のことをよく理解しており、常に入居者の健康管理や状態変化に応じた支援を行える体制である。看護職員がいない時間帯は介護職員の記録や申し送りを基に確実な連携を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には、本人への支援方法にかんする情報を医療機関に提供し、頻繁に職員が見舞うようにしている。また、主治医、相談員と話をする機械をもち、早期退院につなげている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	急変時についての同意書があり、重度化した場合は家族、医師、管理者を交えて話し合いを行っている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携を取りながら安心して過ごしていただけるよう取り組んでいる。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られたときは支援状況を提供し、これまでの生活が継続できるように支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティングの時に日々の関わりについて、管理者が気になるようなことがあったらその都度改めてもらうように指導している。介護する場合に掛ける言葉は、利用者の誇りやプライバシーを損なわないような対応を心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員が先回りをして、答えを誘導するようなことはなく、あくまでも本人の意思を聞き出す努力をしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは持っているが、一人ひとりの体調に配慮しながら柔軟に対応している。週に1回は入浴のない日があり、シーツを洗ったり、個々の方にゆっくりと接することができるようにしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個々の生活習慣に合わせ入浴後にクリームで肌を整える方、髪留めでおしゃれをする方、毎月理容店でカットし、顔から首にかけてふけ剃りをしてもらっている方、美容院でパーマをかけてもらっている方などさまざまですがその人なりのおしゃれを支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の皮むきを行ってもらい、味見で感想をお聞きして、入居者、職員全員が向き合っって食事が楽しめるように雰囲気づくりを大事にしている。後片付けは、それぞれが出来ることを手伝ってもらい、1日の大事な役割としている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒を嗜む程度の方がいらっしゃいますが、時々、担当職員がカップを購入してきて、本人は自室で少しずつ飲まれているくらいです。甘い物が好きな糖尿病の方には本人に気付かれないように量で制限させていただいている。コーヒーを好まれる方は職員と一緒にゆったりとコーヒータイムを楽しんでいる。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表で排泄を把握し、トイレ誘導をおこなうことにより、排泄できるようにしえんしている。8名の方が布パンツに尿とりパット対応である。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとり好むお湯加減は違っており、その方に合わせたお湯加減で入浴していただいている。また、浴槽からお湯があふれ出した方を好まれる方に対しては浴槽のお湯を流しっぱなしにしながらい入浴をしていただいている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はそれぞれの生活リズムがあり、自室でゆっくりと休まれる方もあればソファでくつろいでいらっしゃる方がいるなどそのかたの体調や希望に添って休んでいただいている。就寝時間は本人の希望で支援しており、なかなか寝付けない方はホールで一緒にお茶を飲みながら話をしたりして過ごしていただき、頃合をみて、就寝へと導く。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割があり、仕事をしている時はいきいきとされて、「あんたたちがたいへんだから、、、」と職員を助けている言葉が聞かれる。職員もそのことに感謝しいつも感謝の言葉をかけるようにしている。金柑が収穫される時期、梅が収穫される時期それぞれに保存食を皆でこしらえ食事に生かしている。地域の行事にも参加し、交流の場としている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得て、小額を手元の持ってもらっている方もおり、買い物ができたり、ほしい物を職員に頼んだりして、お金を使うことができるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分転換を図り、外出できる機会を作ったりしていますが、なかなか外出が出来ない方もおられるので車椅子で屋外に出て、気分転換したり、五感で季節を感じていただいたりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節の信仰行事で個別を支援したり、姉妹が見えたときに一緒にレイクランドにいき、楽しくすごしていただくなど、その日にできることは実現に向け検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることも、受けることも快く応じています。職員が毎月出している手紙の返事が家族からあった時はご本人にも読んでもらったりするなど家族の思いが感じられるように支援しています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族の都合のいい時間にいつでも訪ねて来ていただけるような配慮をしている。他の利用者に気兼ねなく過ごしていただけるように居室に案内してゆっくりと気兼ねなく過ごしてもらえるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はあってはならないと職員全員が認識しており、身体拘束は行っていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施設の建物には鍵はしていないが、門は国道に面しており、交通量も多く、一步でたら重大事故発生の危険性は高いので施錠させていただいている。しかし、門を閉めっぱなしにはしないように入居者の状況に照らしながら、開放する機会も設けている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者と同じ空間で記録等を行っている。見守りの職員がその場を離れる時は他の職員にその旨を伝えて引き継ぎをしている。夜間は時間ごとに巡回を行い、気になる入居者への巡回は細目に実施している。また、さりげなく居室の中の状況が把握できるように居室の入り口の戸を少し開けて対応している居室もある。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者の薬や洗剤、刃物類は決められた場所に保管をしている。手を洗う石鹸は日常的に使うので洗面台に置いて自由に使ってもらっているが、これは現在異食のような行動障害のある方がいないからである。ポータブルトイレの消毒液と液体洗剤を希望さらた方がいらしたが過去の経緯を把握して職員の仕事にさせていただいた。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤嚥、窒息が予測された入居者には食事形態、食事の姿勢などを検討し、家族にはご本人の状況を知っていただきながら主治医にも相談して本人を支えてきた。投薬ミスが起こった場合には類似した薬を使う方の薬の保管場所を完全に違う場所に保管するようにした。転倒のリスクの高い入居者は見守りが出来るホールの和室に休んでいただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時マニュアルがホールに掲示しており、職員は機会あるごとに確認を行うと共に、心肺蘇生法の確認を看護師を中心として時々実施している。夜間に事故が発生した場合は管理者への報告を義務づけ、管理者が指示と連絡を行う整備をしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	台風に備え避難計画書を作成している。また、防災訓練を年2回実施して消化訓練、消防署への通報訓練、仰星台入綾への通報訓練(近隣の方と職員への通報)入居者の避難訓練を行っている。浴槽のお湯は翌日の入浴前に抜く様にして災害に備えている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご本人の行動で移乗移動の自立を見極め、家族、主治医、関連施設のPT,業者と検討し、福祉用具を使用することで、安全に移乗移動の自立を支援することができた。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックに変化が見られた時、普段と違った様子が見られた時にはその様子を記録し、状況によっては主治医に報告し指示を受け、受診につなげている。体調の変化などは管理者にも報告し、管理者が家族に連絡するなど、職員、主治医、家族間で共有し対応にあたっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護記録(受診の記録)に処方箋が綴じてある。受診時に薬の処方に変化があった時は連絡帳に記載し、職員全員で共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事のメニューに野菜を多く取り入れたり、10時に黄粉牛乳を提供、水分の摂取にも気をつけているが、なかなか改善できない。排便が-3日目には下剤を使用して排便の管理を行っている。また、トイレ誘導時に子供の頃から慣れ親しんだ擬音を介護者が発し排便を促し排便につながることもある。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に歯磨きの声かけを行い、その方の力に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。うがいが理解できない方は義歯を外した後で水を口元に持っていくと何度も飲まれるのでそれで口腔ケアとしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は記録して把握している。水分の摂取量が少ない方については職員全員が熟知しており、食事時の水分量が確実に摂取できるように支援し、水分を取る機会も多く持つようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	ホールに感染症マニュアルを掲示し、職員は夜勤時などに学習している。利用者及び家族に同意をいただき、職員共にインフルエンザ予防接種をうけ、ノロウイルス対策として、ペーパータオルを使用し予防対策についても掲示している。外出から、帰ってきたら手洗いをしてもらっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板、布巾は調理担当が食事づくりを終えてから漂白して、清潔を心がけている。調理器具や流し台などは毎日洗剤を使って清潔にしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設は、国道に面しており、門を一步出たら重大事故発生のリスクが高く、門はいつも閉じている。しかし、その面に花壇があり、季節の花を植えている。この花壇で隣近所との交流も生まれ、花の苗をいただいたりして季節の花が咲く。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内のカーテンは二重構造にして、採光に注意をするとともに厨房はホールに面しているので食材を刻む音、食材のおいしそうな匂いが自然と感じられている。ホールには観葉植物を置き、自然な緑を感じてもらうように配慮している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファには自然と人が集り、ソファの数も徐々に増えてきた。ソファでは仲良く会話をする姿が多く見られ、時間が空いたら職員もお邪魔して会話のなかに入っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に準備する物として、使い慣れたタンスなどの家具をもってきていただけるようお願いをしています。しかし、重い物を持ち込むのは重労働がゆえに簡単な三段ボックスなどで対応する家族も多いのが現実です。また、当ホームは台風時に水害を受ける可能性もあり、持ち運びに簡単なものに自然となってしまっています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	ドアや窓の開閉は細目に行っています。温度計、湿度計が各所に設置してあり、職員はいつも気にするようにしています。ホールには消臭器を設置して不快な匂いに対応しています。(緑茶の香り)といれは換気扇と消臭剤で悪臭に対応しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりが設置してあり、歩行の手助けをしている。屋外に出て、洗濯物を干す作業が出来る方がほとんど居られないので、室内物干し台にハンガーで洗濯物干しができるようにしている。浴槽は深いつくりになっていたため、底上げ台を作り、安全に入浴できている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所が理解できない方はトイレ近くの居室を提供し、といれの確認ができるように足元灯を設置している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関のポーチが広く、外気浴が楽しめるスペースとなっているが、ゆるやかな下り坂となっているため、入居者は自由に入出入り出来ない。また、砂利が敷き詰めてあるために車椅子で移動が大変である。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員はいつでも笑顔で入居者に接しています。また、入居者のご家族の関係も支援しながら、ご家族と職員のつながりも大事にしています。地域の自治会に入り、地域のまつりごとにも貢献して、普段の生活の中で、いろいろな面で協力をいただいています。